

第29回 (H26.秋) 佐鳴湖水質調査の結果



平成26年12月 清流ルネッサンスII 佐鳴湖地域協議会

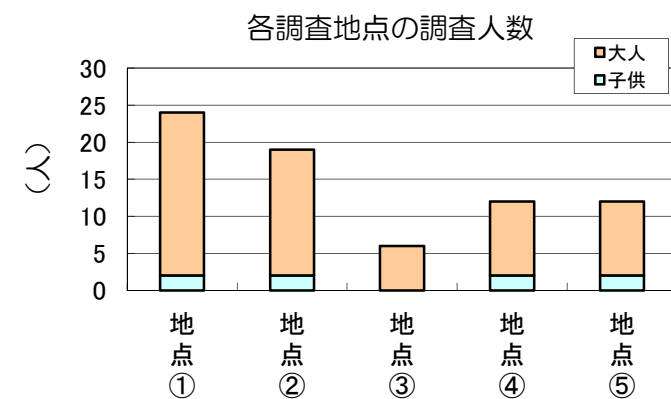
佐鳴湖では、住民の方に協力いただき、水のきれいさや生物の豊かさなどを調査しています。平成19年10月から始めたこの調査は、今回で通算29回目となりました。

調査は大きく分けて「アンケート調査」と「簡易水質調査」の2つがあります。「アンケート調査」は住民のみなさんに調査地点の水を見たり触れたりしてもらい、評価や感想を回答いただくものです。「簡易水質調査」は現地で簡単な器具を使い、水質をその場ですばやく判定するものです。それらの結果と、静岡県が詳しく測定した水質の調査結果をあわせて、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」と「豊かな生態系の確保」などの視点から、佐鳴湖の環境を評価しています。

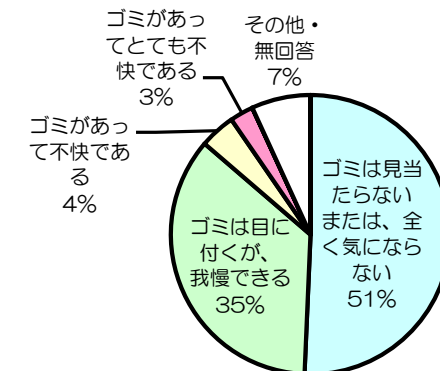
視点	調査の内容	
	アンケート調査	簡易水質調査
人と湖沼の豊かなふれあいの確保	ごみの量、水のおいしさ、湖底の様子、アオコ発生、水辺の音、水の透明さ、水とのふれあいやさ	透視度、透明度、700フィルの簡易確認
豊かな生態系の確保	水辺の植生、水生生物	溶存酸素(DO)、アモニア態窒素(NH ₄ -N)
湖沼の基本的特徴の表現		pH、COD



調査日時：平成26年11月15日(土)
9時~12時
参加人数：37名
(大人33人、子供4人)
調査地点：5地点 ※1人2地点ずつ測定

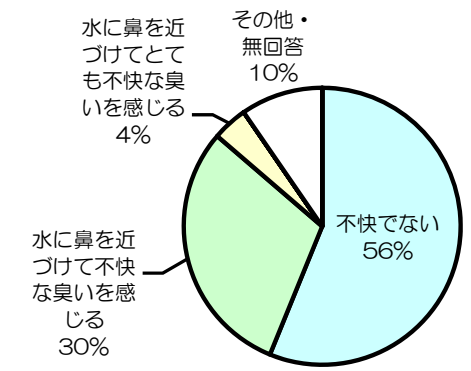


アンケート調査の結果



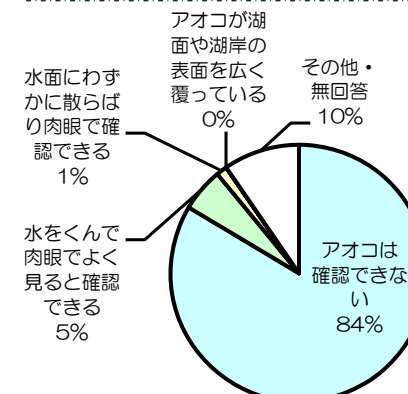
ゴミの量

51%の人が「ゴミは見当たらない、または全く気にならない」と答えました。



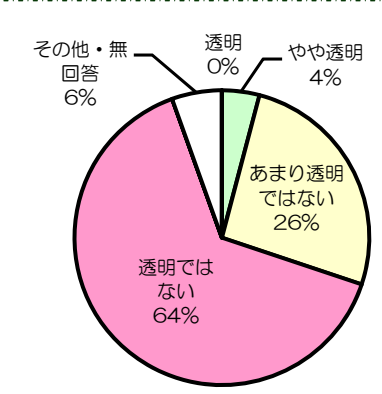
水のおいしさ

56%の人が水のおいしさは「不快でない」と答えました。



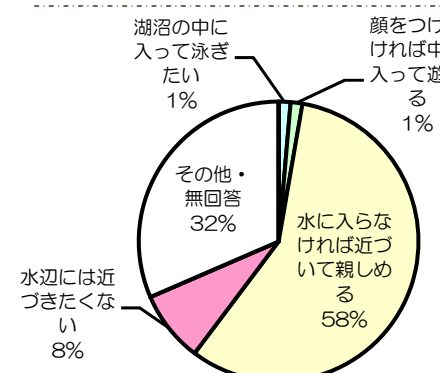
アオコの発生

「アオコは確認できない」という回答が大半を占めました。



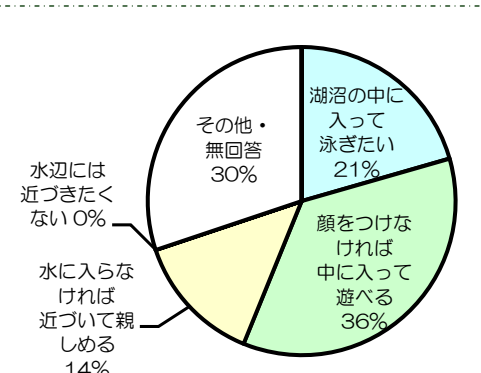
水の透明さ

「透明ではない」、「あまり透明ではない」という回答が合わせて9割でした。



佐鳴湖の水を見て(現状)

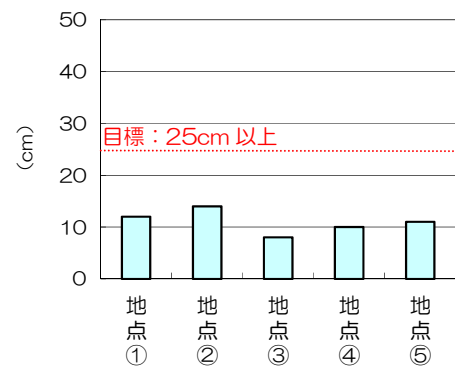
「水に入らなければ近づいて親しめる」という回答が58%で最も多くなりました。



将来の佐鳴湖(希望)

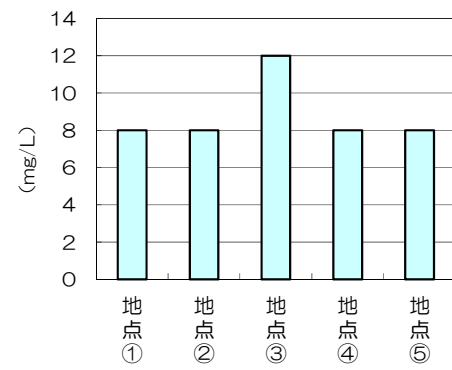
水の「中に入って遊べる」湖になってほしいという回答が36%で最も多くなりました。

簡易水質調査の結果



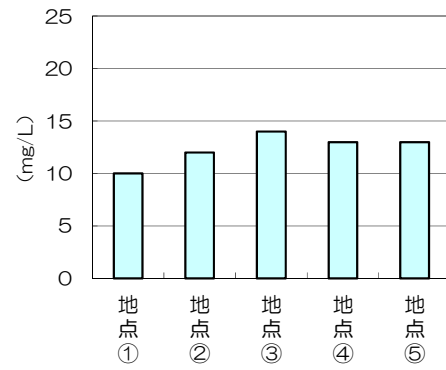
透視度

透視度（水の透明さの程度）は25cm以上が目標ですが、今回は8～14cmでした。



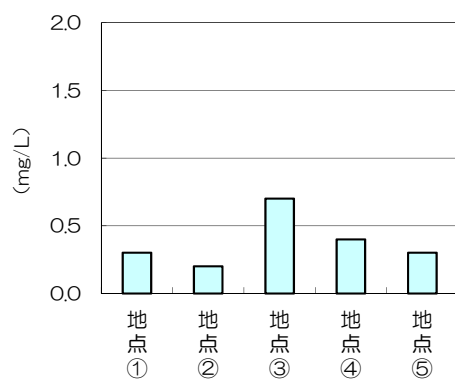
溶存酸素 (DO)

生物の生息に必要な、水に溶けている酸素の量 (DO) は、簡易測定で8～12mg/Lでした。



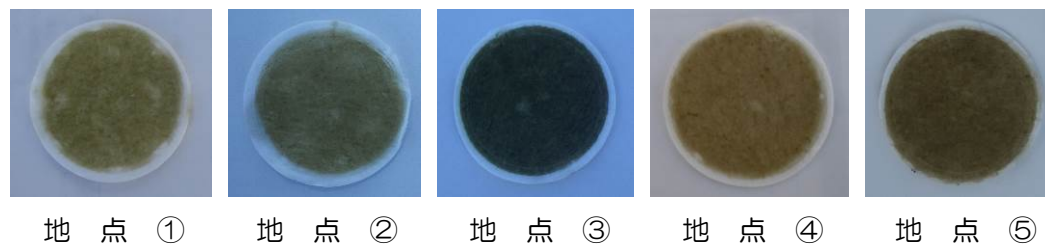
化学的酸素要求量 (COD)

有機物による水の汚れの程度を表す COD は、簡易測定で10～14mg/Lでした。



アンモニア態窒素 (NH₄-N)

生物の死がいなどが分解されてできるアンモニア態窒素は、簡易測定で0.2～0.7mg/Lでした。



クロロフィルの簡易確認

注射筒とろ紙を使って200mLの水をろ過し、色見本と見比べて、クロロフィル（植物プランクトンの色素）のおおよその量を確認しました。ろ紙の色は上の写真のように地点によって少しずつ異なりました。



溶存酸素の簡易確認

河川管理者（静岡県）による測定結果

測定項目	SS (mg/L)	濁度 (度)	クロロフィル a (μg/L)	糞便性大腸菌群数 (個/100mL)	溶存酸素 DO (mg/L)	化学的酸素要求量 COD (mg/L)	アンモニア態窒素 NH ₄ -N (mg/L)
調査地点①	28	39.9	88.0	60	10.4	7.5	<0.01
調査地点②	8	15.4	28.9	170	9.8	5.1	0.02
調査地点③	20	33.5	71.2	84	9.9	6.3	0.01
調査地点④	32	41.5	90.5	26	11.0	7.8	<0.01
調査地点⑤	40	48.4	97.1	86	10.8	8.2	0.01

溶存酸素 (DO)、アンモニア態窒素 (NH₄-N) はおもに底のほうにすむ生物がすみやすい環境であるかを調べるため、底層の水を採取して調べています。

生物調査の結果

水生生物の採取

ペットボトルで作ったしかけやタモ網を使用して、水辺にすむ生物の調査を行いました。調査を行ったのは②③⑤のあわせて3地点です。甲殻類はテナガエビ、スジエビ、モクズガニなどがとれました。魚類はピリンゴ、ヌマチチブ、オイカワなどが見られました。



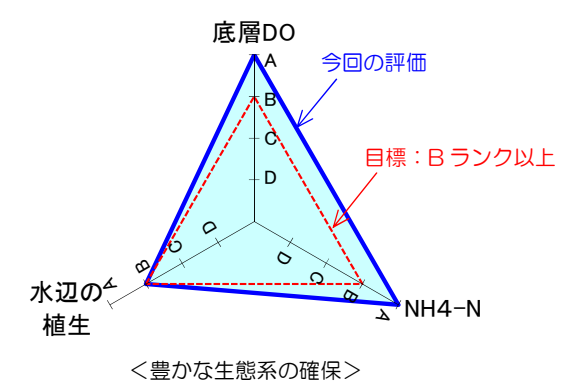
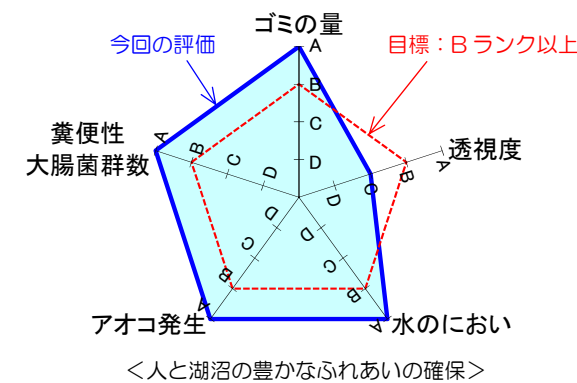
ウナギとエビの試食

入野漁業協同組合のご協力により、今回の調査では特別に佐鳴湖でとれたウナギの蒲焼とエビの唐揚げをみんなで試食しました。佐鳴湖でウナギがとれることを知らない人もいて、意外な(?) おいしさに、びっくりしたという感想が多く聞かれました。



湖沼における新しい水質管理指標（案）による評価

みなさんの調査の結果と河川管理者（静岡県）による測定結果を、平成22年度に国土交通省より発表された評価方法で評価しました。下のグラフは、今回調査した5地点の評価を項目ごとに平均したものです。佐鳴湖の当面の目標は、すべての項目でBランク以上になることです。今回の調査でも、透視度はCランクでした。最も良いAランクの数は、のべ40項目（8項目×5地点）のうち26項目で、全体の65%でした。前回（H26夏）に比べてDOとNH₄-NでAランクが増えました。



おわりに 当日は素晴らしい秋晴れで、絶好の調査日和となりました。ウナギとエビの試食イベントもあり、楽しんでいただけたのではないのでしょうか。次回、冬（2月）の調査も多くの方の参加をお待ちしています。



この調査結果の詳細については、こちらまでお問い合わせください。
お問い合わせ先：清流ルネッサンスⅡ佐鳴湖地域協議会
（事務局）静岡県浜松土木事務所 企画検査課（053-458-7266）